

中学生・高校生に提案されている「本の読み方」

Analysis of books on reading methods for teenager

庭井 史絵
Fumie NIWAI

1. 中学生・高校生に対する読書指導の課題

2018年3月に文部科学省が公表した「子供の読書活動推進に関する有識者会議論点まとめ」によると、読書は“「新しい時代に必要となる資質・能力」を育むことに資する”ものであり、ますますその重要性を増している¹⁾。しかし、一か月に一冊も本を読まない子どもの割合（不読率）は、中学生で15.0%、高校生は50.4%にのぼり²⁾、特に高校生の不読率の高さは、読書する習慣を身につけていない、あるいは読書に関心を持たない子どもに働きかける難しさを物語っている。家庭、地域、学校、図書館はそれぞれ、子どもの発達段階や、読書を取り巻く社会的状況の変化に留意しながら、子ども自身が読書の楽しさを知り、読書の幅を広げ、読書体験を深められる機会を提供することによって、読書習慣の形成を後押しするよう求められている。

中央教育審議会が2016年にとりまとめた「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」も、高校生が読書の意義や価値を認識できるような指導を充実させるために、各科目で読書活動を展開していくことが必要であると指摘している³⁾。これを踏まえて、2018年に改訂された学習指導要領では、各科目に「読書」に関する指導事項が位置づけられるとともに、特に国語科の中で、読書の意義と効用について理解を深めることを目的とした学習内容が多く取り上げられている。

一方、高校生が読書を重要なものと捉えていないかといえば、必ずしもそうではない。2017年の読書調査⁴⁾によると、本を読まない理由として「読む必要を感じなかったから」を挙げた高校生は11.3%で、「他のことをして時間がなかったから」（64.5%）、「他にしたいことがあったから」（47.3%）に比べると、低い割合にとどまっている。また、多くの生徒は「本を読むことは将来にわたって大切である」（「とてもそう思う」26.3%、「ややそう思う」37.3%）と答えていることから、読書の価値を認めてはいるものの、「楽しいこと」や「やるべきこと」は他にもいろいろあり、優先的に取り組むほどその楽しさや意義を実感できていないということが分かる。

子どもに本をすすめるだけでなく、読書の楽しさや意義を伝える重要性については、これまでも繰り返し指摘されてきた。例えば、2004年にまとめられた「これからの時代に求められる国語力

について(答申)」⁵⁾では、学校での読書指導について、以下のように言及されている。

「本を読むこと自体が楽しい」という読み方を学校教育の中で教える必要があり、これまでの教育では、読むことの楽しさを教えることに失敗しているのではないかと考えられる。さらに、学校教育の中で、なぜ読む必要があるのか、なぜ読んだ方が「生きる力」になるのかなどについて考えさせることも大切である。

そのため近年では、学校や学校図書館における読書推進活動にも、子どもに本を紹介する取り組みに加え、子ども同士が読書経験を共有したり、読書の楽しさを感じられるようなプログラムが多く取り入れられている。野口は、1950年以降の全国学校図書館研究大会における実践報告や議論の記録を分析し、学校図書館で行われる読書指導の方法を以下の4つに分類した上で、指導の目的が、読書内容の深化と質の向上から、“読書の楽しさに触れる”“読書そのものと向き合う”⁶⁾という機会創出に変化していることを指摘している。

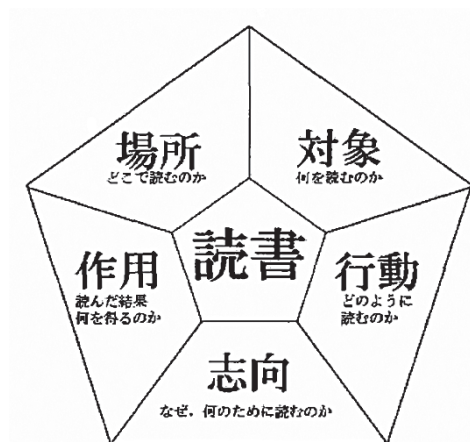
- ① 読んでほしい、あるいは面白い、すすめたいと思う図書を紹介する取り組み(図書の紹介、必読図書、ブックトーク)
- ② 集団で読書をする取り組み(読書会、一斉読書活動)
- ③ 読後の感想や考えなどを綴り、伝える取り組み(読書感想文、一口感想、読書感想画、読書ゆうびん)
- ④ 読書に関連した催しや読書を楽しむための取り組み(読み聞かせ、ストーリーテリング、読書まつりなどの催し、読書のアニメーション)

平井は、1999年に始まった学校図書館司書教諭講習科目「読書と豊かな人間性」の教科書に取り上げられている読書教育の方法を整理し、ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク、読書会、読書感想文、読書感想画、全校一斉読書といった取り組みが、“本の世界のおもしろさ、楽しさを知らせる”，あるいは“読む力を高める”ことを目的としたプログラムであると述べている⁷⁾。

一方、読書の楽しさや意義を伝えることを目的とした本あるいは雑誌の特集を目にする機会も多く、その中には中学生・高校生を対象としたものもある。それぞれの書き手は、読書の楽しさや意義に加え、どのように本を選ぶか、どのように読書するのか(いつ、どこで、誰と)、どのように読書習慣を獲得してきたかなど、さまざまな観点から自らの読書経験を語り、読み手を読書の世界に誘っている。前述したように、学校や学校図書館における読書指導では、本そのものに触れる機会を増やすことによって、読書の楽しみを知ったり、読書の幅を広げたりできる取り組みが多いが、読書について取り上げた図書や雑誌を見ると、読書という行為の楽しさや意義、本の読み方や選び方は、もっと多様な観点から語られていることが分かる。

このような読書行為の多様性については、いくつかの先行研究によっても指摘されている。例えば、國本らは、1998年から2007年に発表された読書に関する研究論文を概観し、これまで読書が、

主に読む対象や、読書のもつ人格形成的な側面から分析されてきたことを指摘した上で、フォーカス・グループ・インタビューを通して、より多様な読書行為の次元を明らかにした。それは、「何を読むのか（対象）」「どのように読むのか（行動）」「なぜ、何のための読むのか（志向）」「読んだ結果何を得的なのか（作用）」「どこで読むのか（場所）」である（図1）⁸⁾。また、尾郷らは、個人個人の「読書のしかた」は多様であるにも関わらず、何を読んだか（対象）、どう理解したか（内容）、どれだけ読んだか（量）に比べて、なんのために読むか、どのように読み、どのように楽しむかという目的や方法、楽しみ方について語られることは少ないと述べている。



（図1）國本他（2009）で示された「読書行為の次元の概念図」

先行研究の結果を踏まえると、中学生・高校生に対する読書指導においても、読む「対象」だけではなく、「行動」「場所」「作用」「志向」という観点から読書という行為を捉え、その楽しさや意義、読み方を伝える必要がある。そこで本稿では、中学生・高校生を対象とした「読書法」と呼ばれるジャンルの本やツールで提案されている読み方を整理し、読書の意義や価値、読書の楽しさ、読書の幅を広げる方法、本の読み方が、どのように語られているかを明らかにした上で、既存の読書指導が、これらを十分に伝える内容・方法であったかどうか検討する。

2. 学習指導要領解説に見られる「読書指導の内容」

まず、2018年に改訂された学習指導要領に、「読書の意義や価値」「読書の楽しさ」「読書の幅を広げる方法」「本の読み方」について、どのように説明されているかを確認する。前章で述べたように、中央教育審議会の答申で“中・高等学校を通じて読書指導を改善・充実する”必要性が指摘されたことから⁹⁾、中学校、並びに高等学校国語の学習指導要領とその解説には、読書に関する指導内容や方法が以下のように示されている。

中学校学習指導要領 (国語編)

●学年の目標

1年生	2年生	3年生
進んで読書すること	読書を生活に役立てること	読書を通して自己を向上させること

●内容

1年生	2年生	3年生
読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役だつことを理解すること。	本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に活かすこと。	自分の生き方や社会との関わりかたを支える読書の意義と効用について理解すること。

学習指導要領解説にみる「指導の方法」

1年生	2年生	3年生
<u>学校図書館や地域の図書館などを活用するなどして、様々な種類の本や資料などを手に取り、読書の範囲を広げるようにすること…</u>	本や文章などは、書き手がそれぞれの立場や考え方から、自分の思いや考えなどを書き表したものである。そのような <u>本や文章などの多様なあり方を理解して、読む対象を選択する際の観点としたり、読み進める際の参考としたりすること…</u>	<u>新しい知識を得たり、自分の考えを広げたり深めたりすることを通して、読書することの意味を実感させること…</u>

高等学校学習指導要領 (国語編)

●内容

現代の国語	言語文化	論理国語
実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。	我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。	新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めること。
文学国語	国語表現	古典探究
人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。	自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。	先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。

●学習指導要領解説にみる「指導の観点や具体例」

現代の国語	言語文化	論理国語
－実体験だけでなく、読書を通して新しい知識を得たり、自分の考えを広げたり深めたりすることが必要となる。 －新書などを読むことを通して様々な分野における考え方に触れること… －一冊の図書をじっくりと読むだけではなく、数冊の図書を読み比べながら、それぞれの趣旨の違いを捉えたり、重要な部分に焦点を当てて検証しながら読んだりすること…	－実体験だけでなく、読書を通して新しい知識を得たり、自分の考えを広げたり深めたりすることが必要となる。 －同一テーマについて描かれた複数の作品を読み比べ、それぞれの作品の歴史的・文化的背景の違いを考えながら、人間、社会、自然などについて考えたり、当時の人々のものの見方、考え方を味わったりすること… －古典を翻案した近現代の物語や小説などを読むこと… －物語や小説だけでなく、韻文や脚本、随筆、文化を論じた近現代の評論など幅広い分野の作品を視野に入れること… －図書館などで図書に触れることに加え、新聞やインターネットなどの図書の紹介欄にも積極的に目を通し、読書に対する自分の興味・関心の幅を広げながら、多くの図書を読んでいく…	－読書は、時間や空間を共有しない他者の意見や考えに触れる機会である。直接、意見を交わし合えない他者とも、読書を通じて互いの思考の過程を比べ、意見を交流することが可能になる。
文学国語	国語表現	古典探究
－文学的な文章を読むことによって生徒は自らの心情を豊かにし、思考力や想像力を伸ばし、人間、社会、自然などに対して自分の考えをもつようになっていく。 －同じ文学的な文章を読んだとしても、年を重ねたり、ある具体的な経験をしたりすることで、以前読んだ時とは異なる印象や感想をもったり、文章から受け取るメッセージが変化したりすることがあり、新たなものの見方、感じ方、考え方の獲得につながることもある。 －学校図書館を活用し、司書教諭や司書などとも連携して適切な読書指導を行い、生涯を通じて読書に親しむ姿勢を康なくすること…	－読書は、多様な考え方や生き方を追体験したり対象化したりすることによって、自己の認識を広げ深めるとともに、多様な表現方法に触れることで、自身の言語表現を豊かにするものである。	－情報化が進展する現代社会において、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにするためには、幅広く古典に親しむことで読書の幅を広げ、読書の習慣を養い、知識や情報を収集し活用し探究する力を身に付けることが必要である。

読書の意義や効用に関する説明は多く、「知識や情報を得る」「自分の考えを広げる」「自分の生き方や社会とのかかわり方を支える」「我が国の言語文化を理解する」「新たな考えを構築する」「人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする」「自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする」「先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする」「直接、意見を交わし合えない他者とも、読書を通じて互いの思考の過程を比べ、意見を交流することが可能になる」「自らの心情を豊かにし、思考力や想像力を伸ばす」が挙げられている。

読書の楽しさについては、「同じ文学的な文章を読んだとしても、年を重ねたり、ある具体的な経験をしたりすることで、以前読んだ時とは異なる印象や感想をもったり、文章から受け取るメッセージが変化したりする」が挙げられている。

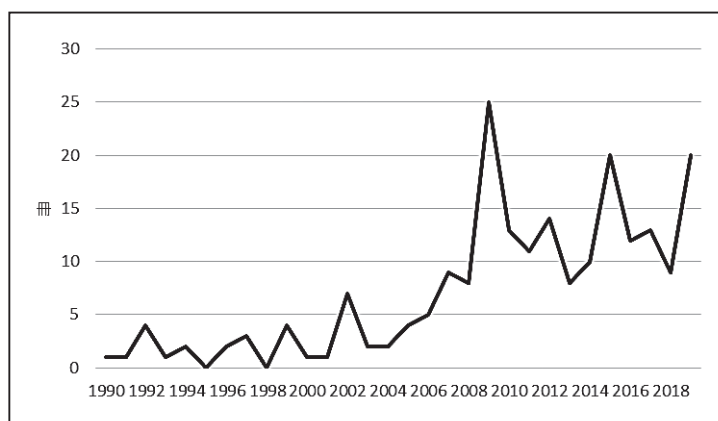
また、読書の幅を広げたり、読書習慣を獲得する方法として、「学校図書館や書店に行く」「新書を読む」「一冊の図書をじっくりと読むだけではなく、数冊の図書を読み比べる」「同一テーマについて描かれた複数の作品を読み比べる」「古典を翻案した近現代の物語や小説などを読む」「物語や小説だけでなく、韻文や脚本、随筆、文化を論じた近現代の評論など幅広い分野の作品を読む」「新聞やインターネットなどの図書の紹介欄にも積極的に目を通す」「司書教諭や司書などとも連携して適切な読書指導を受ける」が挙げられている。

国語科の枠組みのなかで実際にどのような指導がすすめられるかは、今後、各社が製作する教科書の内容を確認する必要があるが、学習指導要領とその解説においては、読書行為の次元でいうところの「対象（何を読むか）」「志向（何のために読むのか）」「作用（読んだ結果何を得るのか）」が中心であることが分かる。一方で、「場所（どこで読むのか）」については図書館や書店が、「行動（どのように読むのか）」については複数の本を比較して読んだり書評を活用することなどが挙げられているにすぎない。

3. 「読書法」の本で提案されている「本の読み方」

次に、中学生・高校生を対象とした「読書法」の本で、読書の意義や楽しさ、読書のしかたがどのように語られているかを整理する。

なぜ本を読むのか、どのように本を読めばよいか、どうすれば本を読む習慣が身につくか、本を読むとどのような効用があるかについて述べた、いわゆる「読書法」の本は多い。例えば、国立国会図書館が所蔵する読書法に関する本（件名に「読書法」が付与されている図書）は、2019年9月現在で284冊あり、国民読書年や「文字・活字文化振興法」が制定され、読書に関心が寄せられるようになった2000年以降、出版点数が増えている（図2）。



(図2) 国立国会図書館が所蔵する「読書法」に関する本の出版点数（1990年以降）

本稿では、以下のような方法で、分析対象となる中学生・高校生を対象とした「読書法」の本を選定した。まず、国立国会図書館サーチ<<https://iss.ndl.go.jp/>>の「詳細検索」を用いて、件名を「読書法」、資料種別を「児童書」、出版年を「2000年以降」として検索した結果、22件が該当した（2019年9月）。同様に、NDC（日本十進分類番号）に「019.12（読書法）」あるいは「019.13（速読法）」が付与された2000年以降に出版された「児童書」を検索した結果、それぞれ13件と4件であった。これらの図書一冊ずつの内容を確認し、中学生・高校生に向けて、読書の楽しさや意義、読書の方法（本の読み方、探し方、出会い方など）を書いていると認められるもの10点を選んで（表1）、その内容を整理した。具体的には、本文中の該当箇所を抽出し、複数の記述をまとめるカテゴリを作成して、その内容を表すキーワードを付与したあと、「読書の意義や価値を実感する方法」「読書の楽しさ」「読書の幅を広げる方法」「本の読み方」という枠組みに沿って分類した。

(表1) 中学生・高校生を対象とした「読書法」の本

No	書名	編著者名	出版社	出版年	ISBN
1	頭がよくなるすごい！読書術	齋藤孝	PHP研究所	2019	9784569788524
2	高校生・大学生のための読書の教科書：アウトプット力を高める11のワーク	稲井達也他	学事出版	2019	9784761925567
3	小学校では学べない一生役立つ読書術	齋藤孝	KADOKAWA	2017	9784046022035
4	正しい本の読み方（講談社現代新書）	橋爪大三郎	講談社	2017	9784062884471
5	「処方せん」的読書術：心を強くする読み方、選び方、使い方	奥野宣之	角川書店	2012	9784041102374
6	「読む」技術：速読・精読・味読の力をつける	石黒圭	光文社	2010	9784334035563
7	頭がよくなる必殺！読書術：うまくいく魔法のじゅもん「心・技・体」	齋藤孝	PHP研究所	2009	9784569771342
8	多読術	松岡正剛	筑摩書房	2009	9784480688071

No	書名	編著者名	出版社	出版年	ISBN
9	未来形の読書術	石原千秋	筑摩書房	2007	9784480687647
10	使える読書	齋藤孝	朝日新聞社	2006	9784092535619

3.1. 読書の意義や価値

本はなぜ読むのか、何のために読むのか、読むとどのような効用があるのかを説明するカテゴリーである。抽出された“読書の意義や価値”は、「アイディアを得る」「新しいことを知る」「気持ちを整えられる」「自分を知る」「意思決定を助けてくれる」「一人で学べる」「言葉が豊かになる」「思考の枠組みができる」「自尊心を得られる」「問題解決を助けてくれる」の10項目であった（表2）。

（表2）読書の意義や価値

意義や価値	具体的な記述の例と出典（表1のNo）
アイディアを得る	そもそも「使える読書」とはなにか？という説明になりますが、本をひとつ読んで、考えをひとつ得る、アイデアをひとつ得る、それをなにかに应用できる形で自分に刻んでおく、こういうことを目論むわけです。（10）
新しいことを知る	本を買うのはどこに知らないことが書いてあると思うからである。あるいは、何が書いてあるのかわからないからでもある。書いてあることがすべて知っていることばかりだったら、その本は買わないだろう。（1）
気持ちを整えられる	小説は不安をしずめるのに使えないのかというと、そうではありません。心に響いたシーンだけを読みかえして、気持ちをコントロールするために使えばいいのです。（5）
自分を知る	僕たちは本によって自己確認をしたいと思っているし、もっと言えば、本によって自分の知っていることや考えていることを権威付けしてもらいたいと、どこかで思っているからではないだろうか。（9）
意思決定を助けてくれる	本を読んで、過去と対話することは、まわりに流されず、自分で考えて判断するための一番いい方法です。（5）
一人で学べる	ひと昔前、ふた昔前にあった多くの職業が、消えています。そして、新しい職業がたくさん出てきます。人生のリセットを途中でやらなければいけないひとが、多くなる。人生のリセットは、どうやるか。今までとはまるで違った専門の本を、いちから読んで勉強し、仕事で使えるようにならなきゃいけない。（4）
言葉が豊かになる	それは、本を読むと、言葉をたくさん覚えられるというのも、ひとつの理由なんだ。言葉をたくさん知ると、すごく気持ちがラクになるんだよね。なぜなら、「自分のいまの気持ちは、こういう感じ」って、ぜんぶ、説明できちゃうから。（7）
思考の枠組みができる	本というもののから、一本の刀をゲットするということ。自分が刀を手に入れると、今度は、その手に入れた刀でほかのものも切ってみるんじゃないかなと展開したいわけです。「あ？これってあの刀で切れるんじゃないか？」と日常生活の他の事象と連結することが、読書の大きな喜びであって、理解の切り口を手に入れるということが読書のおもな狙いです。（10）

意義や価値	具体的な記述の例と出典(表1のNo)
自尊心を得られる	なぜ古典は普通の本より心に効くのか。その理由をさらに挙げると、読んでいる自分が少し誇らしいとか、立派なことをしているという「気分」になることでしょうか。これは独りよがりな思い込みにすぎないかもしれませんが、精神面でプラスになるのは事実です。(5)
問題解決を助けてくれる	解決すべき課題に直面して、考え方の道筋が見つからないときに、そう言えばこんな本にこんなことが書いてあった、と思いつく。それがヒントになれば、本が役に立ったと事後的にわかる。(4)

3.2. 読書の楽しさ

読書の楽しさや楽しみ方について説明するためのカテゴリーである。10冊の読書法の本から抽出できた“読書を楽しむ方法”は、「書かれていないことを発見する」「気分を切り替えられる」「コミュニケーションの手段にする」「自分の本棚をつくる」「自分の枠を超えるものと出会う」「達成感を得る」「多様な世界に触れる」「著者と対話する」「つながりを発見する」「本に関わるものを楽しむ」「常に目につくところに置く」「求めているものに偶然出会う」「装丁・デザインを味わう」「未知の場所・時代を知る」「未知の人・考えに出会う」の15項目であった(表3)。

(表3) 読書の楽しさ

方法	具体的な記述の例と出典(表1のNo)
書かれていないことを発見する	本を読むとは、その前提を発見すること。書いていないのに発見するんです。これはひとつの読み方ですね。(4)
気分を切り替えられる	仕切りなおして気分を入れ替えるときには、子供向けの本を読むのもいいことです。ひとりでディズニーランドに行ったり、子供向け映画を観に行くのはなかなか難しい。しかし、岩波少年文庫など、大人向けの本と同じような形のものなら電車の中で読んでも違和感がありません。(5)
コミュニケーションの手段にする	その本の中から重要な一文を見つけることができる。これを引用して、ふだん誰か、友だちでも上司でも部下でも話をするときに使えど、これはもう「使える読書」です。(10)
自分の本棚をつくる	本の場合は、読み終えて本棚に並べておけば、いつでもそこにいてくれる友だちみたいな関係ができるんだ。その本を書いた作者と一対一で真剣な会話をしているみたいなものだから、友だち感覚になるのも、けっして不思議なことじゃない。(7)
自分の枠を超えるものと出会う	自分にあう本を探すより、敵ながらあっぱれだと感じるために本を読んだっていい。(8)
達成感を得る	読んでいる途中で、やめようかなと思うときもある。それを乗り越えて、もうちょっと読んでみよう、もうちょっと読んでみようがんばったら、またおもしろいところがある。そして、さらにまたずっと進んで、気がついたら、読み終わっていたという感じ。自分が出したエネルギーの分だけ充実感があるんだね。(7)

方法	具体的な記述の例と出典(表1のNo)
多様な世界に触れる	本にも、植物と接するのと同様の多彩多様な世界があって、いったんそういうものに触れるとやめられない。(8)
著者と対話する	ひとつ、本のよい点。プライベートに友だちになるには、人数に限りがあり、時間や費用も少しはかかります。けれども、著者を友だちにするのに、著者の許可はいりません。読者が勝手に、著者は自分の友だちだと、宣言すればよろしい(しかも著者が、性格が悪かったり、酒飲みだったり、ケチだったり、品行方正でなかったりしても、なんの迷惑も被りません)。そうやって、著者の友だちをだんだん増やしていく。これが読者の、「秘かな愉しみ」でなくてなんでしょう。(4)
つながりを発見する	「この文章は、これにつながって、最後、ああ、こうつながったのか」って、もう織物のようですよ。感動するね。ぜんぶが織物になって、きれいな一枚の和服になっているんです。絹織物。ムダな糸は一本もない。これが、すぐれた作家の名文というものだ。「ああ、これがあるから、あれがある。あれがあるから、これがある」というふうに、ぜんぶがからまりあっている感じ。これがわかると、「本というのは、ああ、すごくおもしろいんだな」と、ますます好きになっていきます。ものすごくレベルの高いクイズをたくさん解いた感じがするんだね。(7)
本に関わるものを楽しむ	本にはたくさんの「人の出入り」があるということで、そこを含めて本が好きになっていったんだと思います。(8)
常に目につくところに置く	本というのはよくできたもので、読み終わったものを本棚や机の上など、見える場所に置いておくと、印象的な言葉を何度も思い出すことができます。未読の本であっても、少しずつどういふ本かわかってくる。「積ん読」というのは、まさにこの効果を狙ったものです。(5)
求めているものに偶然出会う	本にも「それぞれ、それが読みたかった」ということがある。けれども、それがどの本におこるかは、わからない。わからないけれども、求めているものに出会えると、それはまさに一期一会ですから、その出会いに感謝します。(8)
装丁・デザインを味わう	本の質量感も好きだ。今は本を置く場所に困っているし、その重さにも悩まされているが、あのパラパラとめくるときの快感はどこからくるものだろう。(9)
未知の場所・時代を知る	夏目漱石の本を読んでいるあいだだけは、明治時代にタイムスリップしているんだ。これは読書でないと、体験できないおもしろさだ。本を読んでいるあいだは明治時代で思いっきり遊んで、本を閉じるとストンと平成時代に戻る。(7)
未知の人・考えに出会う	人の人生は1つだけけど、本を開けば、そこにはたくさんの人生があるでしょ。本を読んでいると、人生経験が10倍にも20倍にもなるの(1)

3.3. 読書の幅を広げる方法

読みたいと思う本にどのように出会えばよいのか、未知のジャンルに挑戦する気持ちになるにはどうすればよいのか、その方法を説明するためのカテゴリである。読書法の本から抽出できた“読書の幅を広げる方法”は、「アンテナを立てる」「関連する本を読む」「ブックガイドを使う」「本棚を眺める」「本について会話する」「本のある場所に行く」「読む準備をしておく」「芋づる式に読む」「喰わず嫌いをしない」「友だちに聞く」の10項目であった（表4）。

（表4）読書の幅を広げる方法

方法	具体的な記述の例と出典（表1のNo）
アンテナを立てる	「いま、こういう問題があるな」といったように。だいたい僕の場合はいつも20本から30本くらいあります。そのアンテナをとにかく何本も立てておく。（10）
関連する本を読む	「系読」というのはぼくが作った用語で、系譜を追う読書です。大きくは日本とアジアとユーラシアをつなぐものを読む、マルクス主義関係のものを読む、科学系のものを読むという三本柱なんですが、それが入り乱れてまして、それでもとにかく片っ端から読んでいくわけです。（8）
ブックガイドを使う	入門書に出てきた、重要そうな本を買って読んでみる。ブックガイドが付いている場合もあるんですね。（4）
本棚を眺める	本屋さんに行っても買わなくても、収穫があるんだよ。本屋さんで本を見るだけで、本の世界には詳しくなる。本というのは、読むだけじゃなくて”選ぶ”というのが、すごく大事な感覚なんだね。（7）
本について会話する	本について話し合い、本について教えてくれる友人。本のことを話題にするのをためらわないひと（を探す）。（4）
本のある場所に行く	「ぶらり遊び」というか「散策遊び」があって、街に出たついでに三回に一回はたいてい書店を覗きます。（8）
読む準備をしておく	よくやるのは、暇ができたときの楽しみとして、「開拓予定ジャンル」の本を置いておくことです。たとえば、「そのうち自転車を始めたい」と思ったら、すぐに読む本を買うついでに、自転車関係の雑誌や本を買って、積ん読山に入れておく。（5）
芋づる式に読む	もうひとつの方法は、自分の大事にしている本で引用されていたり、参考文献として挙がっている本を読むことです。つまり、本から本へと、紹介をたどっていくわけです。（5）
喰わず嫌いをしない	基本はあまりジャンルにこだわらずに、好きにいろいろな本に遊んでみることです。縦横無尽に本の世界に浸るということですが。（8）
友だちに聞く	ぼくが狙っているのは、「最近にかおもしろい本ありましたか?」と聞きあうという習慣だ。実際ぼくが大学のころは、友だちとすれ違いざまに、こう聞きあっていた。こうすると、お互いに刺激がある。自分も読もうと燃える。（7）

3.4. 本の読み方

本はどのように読むか、本とどのように付き合うかを説明するためのカテゴリーである。「読書法」の本で、もっとも記述が多く、抽出できた“本の読み方”は「当たり外れを受け入れる」「あとがきを読む」「核となる本を見つける」「人と共有する」「記録する」「時間をかけて読む」「自分なりの読み方をつくる」「書評を使う」「先入観を捨てて読む」「速読する」「好きな道具を使う」「読書時間をつくる」「内容を予測する」「入門書から始める」「ハードルを下げる」「人と一緒に読む」「批判的に読む」「部分的に読む」「没頭できる状態をつくる」「本に印をつける」「目次で内容を把握する」「目的に応じて読み方を変える」「読み慣れる」「著者と対峙する」「読み返す」「複数の本を同時に読む」の26項目であった(表5)。

(表5) 本の読み方

方法	具体的な記述の例と出典(表1のNo)
当たり外れを受け入れる	読書というのはね、そもそもがマゾヒスティックなんです。だから、「参った」とか「空振り三振」するのも大事なことです。(8)
あとがきを読む	翻訳書のばあいには訳者が「あとがき」を書く。このばあいは、原著の内容のサマリーをしていることが多いので、ぜひここから先に読むのがいいでしょうね。(8)
核となる本を見つける	本は、ネットワークをつくっている。だから、その、本のネットワークの構造がわかれば、読むべき本をうまく選ぶことができる。ネットワークの節目になる本を読めばよくて、そのほかの本は、中抜きができる。つまり、読まなくてよい。(4)
人と共有する	読書とした内容をひとり占めしないというもの、必ず他人に提供せよという方法です。独善や独占を慎むということ。これにもほくは感動して、なるべく実践してきたと思いますね。(8)
記録する	ノートでなくても、カレンダーやスケジュール帳の余白に書き入れてもいいし、携帯電話のカメラで表紙を撮影し、待ち受け画面などで、写真をスライドショーする手もあるので、やり方は個人で工夫してみてください。大切なことは、本棚以外にも、気軽に読書体験をふり返ることのできるような「リマインダー」を持つことです。(5)
時間をかけて読む	書物を少し読み進んだら、そこでいったん本を閉じて、その内容を追想し、アタマのなかですぐにトレースしていくという方法です。これはいまでもほくもときどき実践しています。おすすめします。(8)
自分なりの読み方をつくる	「読む」技術を向上させるには、無意識のうちに身についた自分自身の読み方の癖の姿を知らなければなりません。(6)
書評を使う	本を読んだら、その本の書評をあとで読む。本を読んで、自分なりの感想をもつじゃないですか。それが新鮮なうちに、その本の書評を読んで、「あれ?こんなこと書いてあるかな」と思ったら、私の読みが浅いということだ。書評は、きちんと読めたかのチェックに使える。(4)

方法	具体的な記述の例と出典(表1のNo)
先入観を捨てて読む	読むという行為は、まず一度、自分の考え方や価値観を捨てて、相手（著者）に憑依することです。相手の思考に自分を沿わせるわけです。沿わせて、沿わせて、沿わせて、さんざん沿わせて、そして、何かが自分のアンテナに引っかかっていって、それがいくつかあらわれた部分に傍線を引きまくったあとで、じゃあ、そこからセレクト、というときに急にこちらの立場が偉くなってしまう。(10)
速読する	最初の十冊を読むときに大切なのは、スピードです。ドンドン前に進んで読むことがコツだ。そのためには、内容はカンタンでもかまわない。はじめのうちは、むずかしい本はやめておこう。なかなか進んでいかないからね。(7)
好きな道具を使う	記念館で知ったことなのですが、司馬は原稿を読みかえしてチェックするときは、いつも「ダーマトグラフ」という紙巻きの色鉛筆を使っていたようです。(5)
読書時間をつくる	仕事でいかに時間がとられようと、それでも読書を外さないと思った。そうやって、どんなときも、愉快なときも悲しいときも、調子のいいときも調子がわるいときも本を読むというふうにしてきたわけです。それにはどうするかというと、調子や仕事に合わせた「読書するしくみ」をリズムにしていけるわけです。(8)
内容を予測する	予測しながら読むクセをつけてほしい。最初は、予測が当たったり、はずれたりする。それを楽しむことだね。そして読書の経験を積むうちに、だんだん予測が当たるようになっていくことが必要だ。(7)
入門書から始める	その入門書に何が書いてあるかという、クラシックの系統樹のダイジェスト。これが最初の古典で、これが次の古典で、これがその次の古典で、そこからこういう本とこういう本が書かれて、全体としていま、こうなっています、という見取りが書いてある。これは、一冊読むと、一〇〇冊読んだような効果がある。入門書はすごい。よって、入門書をなるべくたくさん読むべき。(4)
ハードルを下げる	「読書はたいへんな行為だ」とか「崇高な営みだ」などと思いきわないことです。それよりも、まずは日々の生活でやっていることのように、カジュアルなものだと捉えたほうがいい。(8)
人と一緒に読む	本をきちんと読めたかどうか、チェックする厳密な方法など、ないわけだが、強いて言う、同じ本を複数の人間で読む。これがいちばん、正統なやり方です。(4)
批判的に読む	すべての本は、間違っている可能性がある。そう思わなければだめ。なぜか。あるひとが書いたものだから。あるひとの考えだから、です。(4)
部分的に読む	本一冊、丸ごと全部は読みません。自分の本に、「本は全部読みません」と書くのもおかしい話ですが、やり方としては、キーワード速読法に近い読み方をしています。一行一行、一ページ一ページを均等な重要度で読むのではなく、自分に縁があるところを読む。(10)
没頭できる状態をつくる	学電車や通勤電車で揺れながら本を読むと、けっこう集中できるということです。また、喫茶店に入って熱い珈琲や紅茶を頼んで、文庫本などを読み始めると、そこへ珈琲や紅茶が運ばれてくるとスプーンをとって角砂糖を入れる手つきをしているあいだにも、けっこう本が読めている。テイストの工夫というのはそういうことで、お風呂で読むのも、ソファに寝転んで読むのも、そのひとつです。ただみなさんは、そういう読み方を強く意識していないだけで、それをもっと活用すればいいんです。(8)
本に印をつける	手を動かすこと。アクションを交えるのは、読むことを体験として刻印していくということ。その本の著者に打たれっぱなしじゃなくて、こちらも何か手を出す。そういう、共同作業なんです、著者と私の。(4)

方法	具体的な記述の例と出典(表1のNo)
目次で内容を把握する	目次を見て、ごく大ざっぱでいいから、その本の内容を想像するというのが大事なんですね。(8)
目的に応じて読み方を変える	読書という行為は、目的にあわせて読み方を柔軟に変えることが大切です。迅速に処理しなければならない文書は速く読む。創造的なアイデアを生む可能性のある良書はじっくり読む。趣味として読む読書は時間を気にせず自由に読む。読み方の引き出しを増やすことが読書を楽しく意義のある行為にします。(6)
読み慣れる	内容がかんたんでうすい本でもいい、どんどん読み進むのがいいんだ。(1)
著者と対峙する	相手が圧倒的に強いと思って向かうと、足がすくみ、手が力み、身体が硬くなってもう身動きが取れないでしょう。そうすると完全に負けてしまいます。スポーツや勝負事なんてそうですけど、読書も同じ。「気持ちでは負けてないよ」という地点から読み始めることが「使える読書」の基本線です。(10)
読み返す	読書って二度するほうがいいんです。同じ本をね。というのは、読書にはその本のこととはべつに、いつ読んだのか、どんな気分で、どんな感受性のときに読んだのかということが、密接に関わっている。道中がくっついている。(8)
複数の本を同時に読む	本は一冊ずつ、一冊だけを読んでいるんじゃないってことです。ジーンズの上にシャツを着たりセーターを着たりジャケットを着たりするように、自分のお気に入りのジーンズ・リテラシーの上にいろいろ本の組合せを着たり脱いだりすればいいんです。(8)

4. 『Life with Reading—読書の秘訣カード』が示す「本の読み方」

読書法の本に加えて、本章では、読書の楽しさや意義に対する気づきを促し、読書への動機づけに資することを目的として開発された対話ツール、『Life with Reading—読書の秘訣カード』（以下、『読書の秘訣カード』と称す）を取り上げる。『読書の秘訣カード』とは、慶應義塾大学井庭崇研究室と株式会社有隣堂が「創造的読書のパターン・ランゲージ」として共同開発し、読書に関するコミュニケーションを創出することによって、読書に対する意識や行動を変えるためのツールとして、2017年に開催された図書館総合展のフォーラムで紹介された。

パターン・ランゲージとは、実践のコツや経験則を言語化するための手法で、1970年代に建築デザインの分野で考案され、現在では、ソフトウェア開発や人間行為のデザインに応用されている¹⁰⁾。ひとつひとつのパターンに、ある「状況」(Context)において生じる「問題」(Problem)と、その「解決」(Solution)を簡潔に記述し、「名前」(パターン名)をつけるという共通の型がある。

これを読書の領域に応用し、日常的に読書している人たちの読み方や楽しみ方を、27のパターンとしてまとめたものが『読書の秘訣カード』である。27のパターンは、“読書のコツ”“読書の楽しみ方”“創造的読書”という3つのカテゴリーに分類されており、一つひとつのパターンが書かれたカードを見ながら自分の読書について考えたり、読書に関する経験を他人と語り合うという使い方をする(図3)。

自分なりの書き込み



読書をしていると、さまざまな気づきや感動を得ることがあります。しかし、そうした発見は瞬間的なもので、つかみ損ねてしまったり、時間が経つと忘れてしまったりするものです。

そこで、本を読むときには鉛筆やペンを持つようにし、重要だと感じたところに線を引いたり、考えたことを余白に書き込んだりするようにします。

読んでいるときに自分の思考の跡を本に残すことで、考えを整理して深めながら読み進めることができます。また、読み返したときに、自分が重要だと思った箇所を見つけやすくなったり、自分の考えの変化に気づけたりするようになります。

読書のコツ 2

本がきっかけ

本のなかには、美味しそうな料理が出てきたり、魅力的な場所が出てきたりするものです。主人公が食べていたあの料理を実際に味わってみたい！舞台となったあの場所に行ってみたい！

本がきっかけとなって、実際にその料理をつくってみたり、その場所に行ってみたりすることは、自分の世界と本の世界が重なり合う特別な体験となります。



読書の楽しみ方 8

(図3)『読書の秘訣カード』の例

この『読書の秘訣カード』も、読書について“何を讀んだか（対象）、どう理解したか（内容）、どれだけ讀んだか（量）、ということはよく語られるが、いかにして讀んだか・楽しんだか（方法）ということが語られることは、あまりない”¹¹⁾という問題意識のもとに作られており、読書行為の多様な観点が取り上げられている（表6）。

(表6) 読書の秘訣カードで示された読書の意義、読書の楽しさ、本の読み方

カテゴリー	パターン名	パターンが示す読書の意義・楽しさ・読み方など
読書の コツ	ラフに読む	文章のおおまかな流れをつかみながら重要そうな箇所を拾い上げるように読み進めます。
	自分なりの書き込み	本を読むときには鉛筆やペンを持つようにし、重要だと感じたところに線を引いたり、考えたことを余白に書き込んだりするようにします。
	好きな読み方	立ちながら読んだり、横になって読んだり、あるいは、音楽を聴きながら読んだり、場所を変えて読んだりします。
	本との先約	本を読む時間を自分のスケジュールに組み込み、手帳にも書き込みます。
	自分にとっての価値	読書はこれからの自分を形づくる土壌を育むために不可欠なものであると捉え、読書の時間を確保するようにします。
	まわりを巻き込む	自分が読もうとしている本に興味がある人を探したり、増やしたりして、その本を読んで一緒に語り合うという機会をつくります。
	本のなかのリンク	自分が面白いと思った本のなかで紹介されている本や人の情報をもとにして、次に読む本を選びます。
	感覚が近い人	「面白い!」と思う感覚が自分と近い人を見つけ、その人が読んでいる本やオススメしている本を読んでみます。
	自分の本棚	気になった本はその場で手に入れ、自分の本棚に並べておきます。
読書の 楽しみ方	本への愛情	ページの質感や紙の匂い、重みなど、いろんな感覚を通じて得られる楽しみがあるのです。
	こだわりの発見	作り手のこだわりを見つけると、作り手への尊敬が増し、その本を持っていることへの喜びもより大きくなります。
	とっておきの場所	好きな本が普段から目につきやすいところに置いてあると、幸せな気持ちになります。

カテゴリー	パターン名	パターンが示す読書の意義・楽しさ・読み方など
読書の楽しみ方	なじみの本屋	素敵な本に出会えるという期待感を持って本屋さんに行くことは、胸が弾む時間となるのです。
	本の散策	森の木のようにずらりと並ぶ本の世界を眺めることは、それ自体が楽しいことです。
	今日のおとも	本は、読むときだけでなく、選ぶときにも楽しむことができます。服を選ぶのと同じように、その日の気分に合った本を選びます。
	追っかけ読書	その人と話すために、その人が読んでいる本を自分も読んでみるというのは、読書のひとつのきっかけになります。
	本がきっかけ	本がきっかけとなって、実際にその料理をつくってみたり、その場所に行ってみたりすることは、自分の世界と本の世界が重なり合う特別な体験となります。
	本のある生活	自分の生活を送りながらも、本を通じて、遠く離れた時代や全く異なる世界に触れることができます。
創造的読書	発想の素材	本に書かれている内容を理解するために読むのではなく、自分が今取り組んでいることに対する発想を得るために読むのです。
	スタイルの継承	自分がよいと思う雰囲気の本を手にとり、その本の文体やスタイルに触れてからつくるようにします。
	勇気の源泉	本に込められた著者の情熱や、作品の登場人物の勇敢な姿を思い出すことで、勇気をもらい、自らのエネルギーにすることができます。
	別の可能性	本で語られていることや描かれている物語は、今の自分とは違う「別の可能性」への想像力を高めてくれます。
	本のデザインから	書かれている内容だけでなく、装丁などの「本のデザイン」からインスピレーションを得るということも、本の使い方のひとつなのです。
	考えの型	他の分野の体系的な理論やフレームワークを武器に、自分の分野を理解するための「考えの型」として、思い切って使ってみる。
	つくる人生	創造的な日々や生き様が綴られた本を読むことで、自分なりの生き方を形づくるヒントを得ることができます。
	世界の流れ	本屋に並ぶ本を見ていくことで、今どのような本が出版され、どのような本が話題になっているのかを知り、「世界の流れ」をつかむのです。
	未来のかげら	いろいろな本の中から未来の萌芽（きざし）を感じさせる「未来のかげら」を見つけ出し、それをもとに未来のビジョンを描く。

このようなパターンを、前章に倣って、読書の意義や価値、読書の楽しさ、読書の幅を広げる方法、本の読み方の各カテゴリーに分類すると、おおよそ、以下のようになる。

● 読書の意義や価値

本のある生活／発想の素材／スタイルの継承／勇気の源泉／別の可能性／本のデザインから／考えの型／つくる人生／世界の流れ／未来のかげら

● 読書の楽しさ

本への愛情／こだわりの発見／とっておきの場所／なじみの本屋／本の散策／今日のおとも／本がきっかけ

- 読書の幅を広げる方法

本のなかのリンク／感覚が近い人／追っかけ読書

- 本の読み方

ラフに読む／自分なりの書き込み／好きな読み方／本との先約／自分にとっての価値／まわりを巻き込む／自分の本棚

5. 中学生・高校生に対する読書指導を再考するにあたって

本稿では、学校や学校図書館における読書指導において、読書の楽しさや意義を伝えたり、読書の幅を広げ、読書習慣を獲得できるよう働きかけたりすることが求められているという状況を踏まえ、読書の意義や楽しさ、読書の方法にはどのようなものがあるかを整理した。中学生・高校生を対象に書かれた「読書法」の本や、読書についての対話を創出するツールを検討した結果、学習指導要領には取り上げられていない、多様な読書の楽しみ方や本の読み方が取り上げられていることが分かった。

これまでの中学生・高校生を対象とした読書指導では、「どこで読むのか」「誰と読むのか」「どのように読むのか」「どのように本を出会うか」「何のために読むのか」という要素に焦点を合わせてはならず、読書という行為の多様性と楽しさを十分に伝えるものではなかった。今後、読書の楽しみ方や意義を伝えたり、読書の幅を広げるための指導について考えるにあたっては、本の紹介や読書経験の共有、読書時間の提供など、本に直接触れる機会をつくるだけでなく、読書という行為の多様性に目を向け、生活のさまざまな場面で本を楽しみ、読書の効用を感じられるよう働きかける必要がある。また、中学生・高校生自身がどのような時に本を手に取り、どのように本を楽しみ、どのように本と付き合っているのかを明らかにすることも、取り組むべき課題として指摘しておく。

注・引用文献

- 1) 文部科学省. “子供の読書活動推進に関する有識者会議論点まとめ”.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/040/attach/1402566.htm, (参照2019-10-20).
- 2) 全国学校図書館協議会. 特集, 子どもの読書の現状第64回学校読書調査報告. 学校図書館. 2018, (817), p.14-40.
- 3) 中央教育審議会. 幼稚園, “小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)”.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf, (参照2019-10-20).
- 4) 文部科学省. “子どもの読書活動推進計画に関する調査研究報告書第2章子供の読書活動の実態”. 子ども読書の情報館. www.kodomodokusyo.go.jp/happyou/datas_download_data.asp?id=50, (参照2019-10-20).

- 5) 文部科学省文化審議会. これからの時代に求められる国語力について (答申).
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/bunka/toushin/04020301/015.pdf, (参照 2019-10-20).
- 6) 野口久美子. 小学校・中学校における読書指導の実践に関する報告記事の分析-全国学校図書館研究大会を事例として. *Libraryandinformationscience*. 2009, (62), p.111-143.
- 7) 平井むつみ. 学校図書館における読書教育の理念と方法:司書教諭養成の視点から. 滋賀文教短期大学紀要. 2014, (16), p.1-30.
- 8) 國本千裕, 宮田洋輔, 小泉公乃, 金城裕奈, 上田修一. 読書行為の次元:成人を対象としたフォーカス・グループ・インタビュー. *日本図書館情報学会誌*. 2009, 55 (4), p.199-212.
- 9) 前掲1)
- 10) 井庭崇. 創造的な対話のメディアとしてのパターン・ランゲージ:ラーニング・パターンを事例として. *Keio SFC journal*. 2014, 14 (1), p.82-106.
- 11) 尾郷彩葉; 木村紀彦; 井庭崇, 渡辺泰. “創造的読書のパターン・ランゲージ:本を読むことについての言葉”. *Asian PLoP2018 WWS Version*.